



ホンダ S660オーナーに送る
チューニング&ドレスアップガイド

H O N D A

S660開発責任者 椋本 陵
インタビュー
「最後の1台になるまでS660に乗り続けたい」



S660*06



初期モデルは車齢8年目

S660を長く楽しむために

徹底解説
メンテナンス
ガイド

TUNING & DRESS-UP GUIDE



エアロや脚まわりで
エンジンチューンで
魅力UP

レーシングドライバーもトリコになる

「手軽だけど奥深い」
軽オープンスポーツ



レーシングドライバー
小林 崇志
Takashi Kobayashi

Special
Impression & Interview

レーシングドライバー
大湯 都史樹
Toshiki Oyu



VEHICLE



NEXT GENERATION S660
次世代の軽スポーツはEVになる!?

MAKER & SHOP DEMO CAR
メーカー&ショップデモカー

TUNING & DRESS-UP



EXTERIOR MODIFY GUIDE
エクステリアモディファイガイド

S660 PARTS CATALOG 2022
2022年度最新チューニングパーツ図鑑

MECHANISM



HONDA TUNING SPECIALIST
ホンダチューナーに聴くS660の楽しみかた

HOW TO FEEL REAL S660
S660本来の走りを楽しむリフレッシュ術

スポーツカーを楽しむなら運転環境が大事 「Made in JAPAN」に拘ったスポーツシート



奥津匡倫=文
Text by Masamichi OKUTSU

ブリッド株式会社
代表取締役社長
高瀬嶺生さん

クルマの走りを楽しむうえで、想像以上に重要なのがシートである。横Gに負けないホールド性はもちろん、クルマとの一体感など、身体で性能を感じられるシートは走りためには必要不可欠な存在と言える。それはS660でも同じこと。ミッドシップの軽オープン2シーターというレイアウトから、車内スペースの関係でシートの選択肢は限られてしまうと思われがちだが、実際のところはどうなのか。国産シートメーカーの雄「ブリッド」にその実情を伺った。

BRIDE [ブリッド]

取材協力:ブリッド(TEL:052-689-2611) <https://bride-jp.com/>

「シートは脚まわりのパーツの一部です。クルマの走りは変わります」
日本を代表するスポーツシートメーカー「BRIDE(ブリッド)」。
ストリートチューニングからモータースポーツシーンにおける活躍など、その名を知らないクルマ好きはいないだろう。そのBRIDEを率いる高瀬社長はこう力説する。
クルマやタイヤの性能は日に日に高まっており、ノーマル状態でもかなりのコーナリングGを発生させるモデルは珍しくない。そんなクルマを走らせるのに、世界中のあらゆる技量の人が座ることを想定した純正シートでは、コーナリング中に体がズレてしまったり、ブレーキングでシートが沈んで踏力が逃げてしまったりなど、正確な操作ができないことも起こり得る。十分な剛性を持ち、しっかり身体を支えられるシートがあれば、操作は 無駄なく伝わるのだ。
実際にBRIDEのシートもモデルチェンジごとに構造や素材、製法が新しくなっており、シート剛性も高められているという。
S660オーナーのなかにも、「とにかくサーキットを走る予定はないから…」という人は多いだろう。しかし優れたシートがもたらす効果は、速く走るためのサポートだけではなく、実際、BRIDEシートの装着数が増え、ハイエースだそう、長時間乗っても疲れない、腰が痛くならないなどの理由で選ばれている。身体をきちんと支えられるシ



グラデーションロゴ

BRIDE XERO VS

価格:12万6500円~18万4800円(税込)

コンパクト設計のサイドサポートなどにより、室内空間に余裕のない車種でも装着が可能なフルバケットシート。腰や大腿部の高いホールド感はもちろん、フィット感も良好だ。シェルはFRPとスーパーアラミドの2種類をラインナップ。車検対応。FIA公認。



軽カーに最適なコンパクト設計

BRIDEラインナップでもっともコンパクトなヘッドガードを始め、各部がコンパクト設計とされているため、スペースが厳しい車種でもポジションの妥協を強いられることがない。



ブリッド独自のLOW MAXシステム搭載

LOWMAX構造のシートレールを設定。S660の場合、ローポジションに加えシートとハンドルのオフセットをゼロに調整することも可能。LOWMAX構造のシート専用用品で、フルバケット用のLF、ガイアス・ストラディア用のLRを用意する。



レッド



グラデーションロゴ

BRIDE ZETA IV

価格:12万3200円~18万1500円(税込)

日本人の体型、体格に合わせたBRIDEフルバケットの基本モデルが「ZETA」シリーズだ。現行モデルのZETA IVは4世代めとなり、従来モデルを15%上回るシェル剛性を誇る。フィット感が向上し、適切なポジションを無理なく保持できる。



シートベルトホールは大きく、座高やHANS装着に応じて変わる条件に対応している。

ZETA&ZIEGの2種類を展開

BRIDEを代表するフルバケットシートのZETA(左)とZIEG(右)。レッドのZETAに対し、ブラックのZIEGはバックレストが「く」の字形状となる。着座位置は両者とも同じなので、ドライバーの体型や好みによって選択が可能。シートに潜り込むような着座姿勢となるZIEGのほうが、アイポイントはより低く感じられるかも知れない。



ZETA



ZIEG

シートは体に優しくもあるのだ。

S660に最適なシートはこれだ!!

多くの製品ラインナップを誇るBRIDEだが、現在、S660に装着可能なシートとしてカタログに記載されているのはフルバケットシートの「XERO(ゼロ)VS」、そしてリクライニングタイプの「DIGOライツ」という2種類しかない。その理由は、適正なシートポジションを取れる状態で装着すると、室内のどこかに干渉してしまう恐れがあるからだという。

もちろん干渉すると言っても、ドアが閉まらないとか、シートスライドができないというレベルの話ではない。極端な話、「チューニングってそういうもんでしょ」という一言で納められる範疇ともいえる。とはいえ実際に干渉するのは事実であり、昨今はスマートなフィッティングを期待するオーナーも増えているため、メーカーとしては「装着不可」としている部分もあるという。言い換えれば、物理的に装着できないわけではないので、「どうしてもこのシートを装着したい!」というオーナーもいる。そこで実際にS660へBRIDE製シートを装着してみて、その状態を確認してみることにした。

ドアや内装に干渉するからダメというオーナーもいると思うが、干渉するにしても、場合によっては「このくらいならOK」というケースもあるだろう。そうすればS660オーナーにとっては、BRIDE製シートを選択肢がこれまでの2種類か

NEW PARTS INFORMATION

edirb OB1
(グレーステッチ)

edirb OB1

価格:23万1000円(税込)

BRIDEの展開する高級ラインのブランドが「edirb(エディルブ)」だ。シートのシェルはZETAおよびZIEGと共通で、ZETAベースがOA1、ZIEGベースがOB1となる。今回はZIEGを想定してOB1を装着。バックレストが「猫背ライン」となったディープホールド設計でドライバーを深く包み込み、より低いアイポイントの実現を可能としている。



抗菌対応の高級素材を使用

OB1の表皮は難燃はもちろん、抗菌や脱臭効果も持つ3種類の素材が用意され、画像のものはウルTRASエードとなる。いずれも見た目の上質さ、手触り、フィット感などを兼ね備えた素材だ。



シェル形状はZIEGIVと同様

OB1の基本構造はZIEGと同じで、ラウンドしたバックレスト形状で高いホールド性を追求したのとなっている。表皮の違いなどで少し厚みがあるため、S660ではショルダーサポート部分がドアに干渉する量がやや多い。

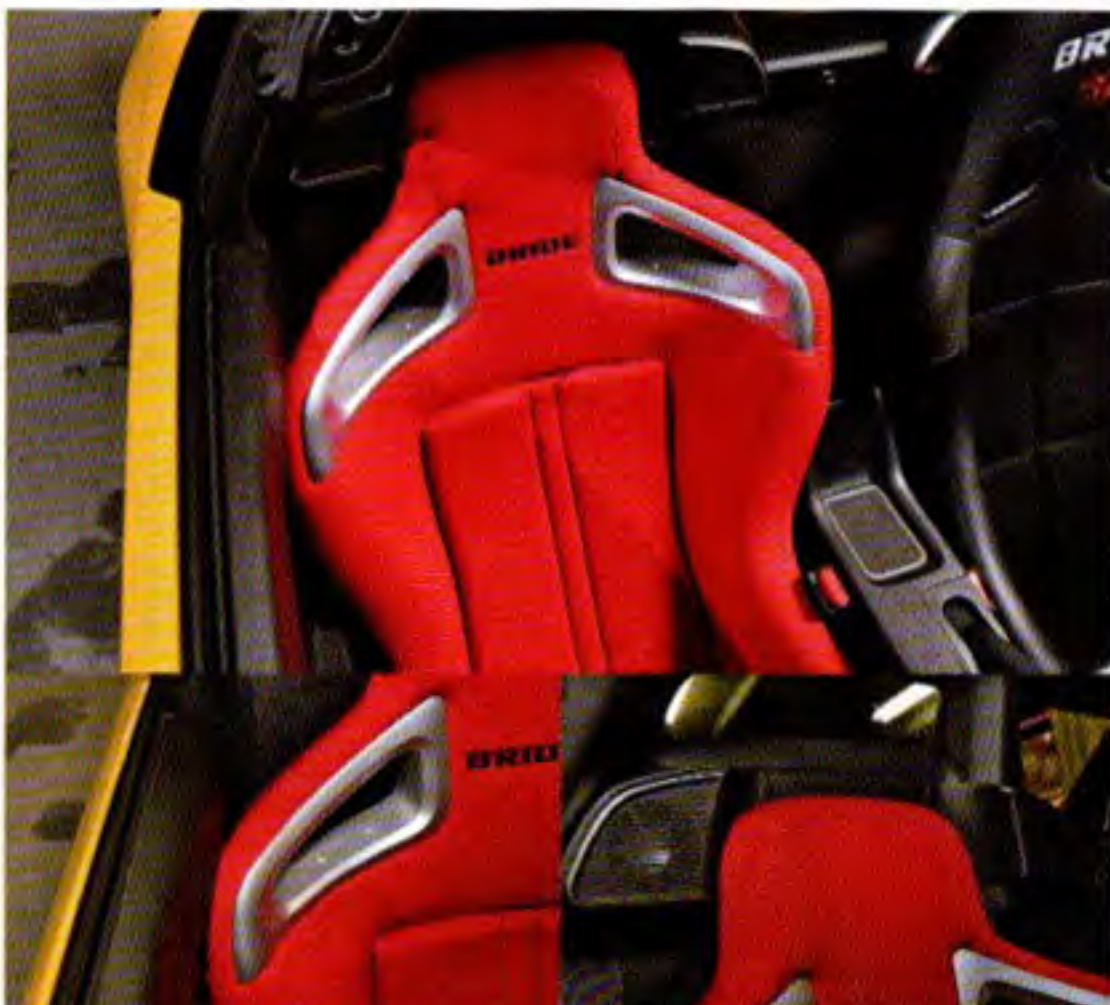


ブラック

BRIDE A.i.R.

価格:14万3000円(税込)

室内空間がタイトな2シーター車でも装着可能な、スリムでコンパクトなデザインを持つA.i.R.。フォーミュラポジションとブリッド独自のLOWMAXシステムを採用しており、ローポジションを実現。長身のドライバーでも十分なヘッドクリアランスを確保できる。



空気の流れを感じさせるエアロフォルム

シート幅は十分なサイズがあるが、ヘッドレストが小さめで、バックレストの形状も相まってスカイサウンドスピーカーには干渉しない。「A.i.R.」という名称どおり、シート形状は空気の流れをイメージしたデザインとされ、良好な座り心地も実現している。

ら増えることになる。

今回、テスト装着を行ったS660は純正アクセサリーのスカイサウンドスピーカー装着車。ヘッドレストに近い場所へスピーカーが装着されるだけに、アフターパーツのシート選びを困難なものにする一因ではあるが、人気の純正アクセサリーでもあることから、検証車両としてはむしろ好都合だろう。

装着検証を行ったのは、フルバケットシートが4モデル、リクライニングタイプが1モデル。ミッドシツブレイアウトのS660は、リクライニングするためのスペースは実際には存在しないため、フルバケットシートに対する抵抗感は少ないだろうということからこのラインナップとした。まず最初は、装着可能と発表されている「XEROVS」から。ヘッドまわりやサイドサポートがコンパクトに設計され、S660にも装着可能とアナウンスされているXEROVSは、たしかにドア側・コンソール側どちらにも余裕をもって装着できる。また前方へ張り出したヘッドサポートがスカイサウンドスピーカーとの空間を生み、後方へスライドしても干渉しない。

LOWMAX機構を採用しているだけにヒップポイントは低く、メーカー推奨位置で取り付けるとノーマル比でマイナス30ミリほど。座ってみると視線位置が明らかに低くなったと実感できる。ヘルメットを被った場合でも、ヘッドクリアランスは問題なさそうだ。やはりS660に装着するなら間違いないモデルだ。



ブラック

レッド

グラデーションロコ

BRIDE STRADIAⅢ (ストラディア スリー)

価格:22万円28万500円(税込)

フルバケットシート並みのホールド性と、乗降時などに有利なリクライニング機能などの快適性を併せ持ったリクライニングバケット。シェルが分割される分、フレーム構造は強固で、従来モデルはもちろん、フルバケと比較しても劣らない高剛性を実現している。

BRIDE



3世代めとなる現行モデルではフレームが新設計となり、ZETA譲りのバックレストデザインをベースにしたモノコックシェルによってねじれ剛性は前モデルから40%アップ。そのほか各部の圧倒的な強度を実現した。専用のシートバックプロテクターも設定されている。

新型フレーム&シェルは3D-CADによって設計

使い勝手に優れたリクライニング機構

リクライニング機構も一新されており、精度や強度が大きく高められている。リクライニングは有段式だが、ガタや遊びは極限まで少なくされるなど、使用感やクオリティの高さはブリッドならでは。



次に装着したのはZETA(ジータ)Ⅳ。BRIDEのフルバケットシートの基幹となる製品であり、ベストセラーモデルでもある。事前情報では「干渉する」とされていたが、実際にはそれほどシビアではなく、ドア側内装に少し触れるくらい。シート側もシェルが押されるほどではなく、シート表面のスポンジ部分が押されるくらい。そのため前後スライドも問題なく行える。

こちらもヒップポイントは30mmダウンで、ヘッドクリアランスは余裕がある。しかしヘッドサポートが大きいため、シートを最後までスライドするとスピーカーに干渉した。

続いて装着したのは上級ラインのフルバケットシート「edirb」のOBI。表皮は高級感ある素材を使用しているが、基本骨格はZETAⅣの兄弟製品である「ZIEG(ジーク)Ⅳ」と共通だ。

装着感はZETAⅣと大きく変わらず、ドア側や後方のスピーカーにそれぞれ干渉した。しかし、edirbブランドの各製品はシート内部のスポンジなどが厚めになっていることもあり、ZIEGであればもう少しスムーズに装着できたと思われる。背もたれ部分が「くの字」に曲がっていることが特徴で、座った感じはZETAよりタイトで低い印象。推奨位置で装着したが、小柄な人では前が見にくいかもしれない。

4モデルめは「Air(エア)」だ。ヘッドレストがコンパクト設計なのでスカイサウンドスピーカーには干渉しなかったが、ショルダー部分が



ワンタッチ操作可能なレバー式

従来モデルではダイヤル式だったリクライニング操作が、現行モデルではレバー式となり素早い調整が可能となった。純正シートと同様の方式なので、交換前と変わらない感覚で使用できるのも魅力だ。

大きいためドア側には少し干渉が見られた。ヒップポイントは他のモデルと大きく変わらないものの、バックレストがやや寝たような構造のため、座った感じは今回検証したモデルではもっとも低い印象だった。いっぽう肩回りがやや広い作りのためか、着座感はOBIやZETAに比べてややゆったりしている感じ。大柄なドライバーは気に入らそうだ。

そして最後に装着したのが、リクライニングバケットの「STRADIA(ストラディア)Ⅲ」である。フルバケットシートに匹敵するホールド感を誇り、ヒップポイントも他モデルとほとんど違いはない。

サイドサポートも十分なサイズながら、装着してみるとドアには干渉しないことが分かった。スカイサウンドスピーカーには干渉したものの、非装着車なら問題ないだろう。シートベルトバックルをシートの分割位置に逃がせたのが良かったようだ。装着不可とされていたモデルだが、装着できることを確認できたのは収穫だったといえる。

HONDA S660なら、

ジータIV、ストラディアIII。



写真は、ホンダ・S660の運転席、助手席ともに
ZETAIV・FRP製シルバーシェル・
ブラック(HA1ASF)を装着したものです。

様々な

モータースポーツで鍛えられた

新世代スタンダード

フルバケットシート

の最高峰

ジータIVは、

ホールド性能が高いだけでなく、

左右にオフセットしない

着座位置が得られ、

S660の純正シートに対して

30ミリのローダウンとなる。

リクライニングシートに

こだわるとなら、

新世代アクティブコンフォートシートの

ストラディアIIIをお薦めする。

スタンダードフルバケットの最高峰ZETAが
LOW MAX仕様に進化、
新世代スタンダードフルバケット、ジータIV。

ZETAIV

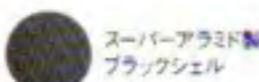
¥123,200～¥181,500(税込)

- FRP製シルバーシェル/スーパーアラミド製ブラックシェル
- 全3色(グラデーションロゴ/ブラック/レッド)
- 難燃生地●保安基準適合モデル●FIA規格取得モデル●日本製
- 着座センサー搭載(座面部)※車種によっては、対応できない場合があります。
- FRP製重量:約7.4kg/スーパーアラミド製重量:約7.4kg(参考数値)



抗菌(除菌・脱臭)対応の安心仕様

車検もOK!



写真のモデルは、
ZETAIV・FRP製シルバーシェル・
ブラック(HA1ASF)です。

- S660(JW5)適合シートレール/
●シートレール右席:H051LF ¥26,400(税込)※純正座面比最大-30mm
●シートレール左席:H052LF ¥26,400(税込)
※サイドエアバッグ装着車の場合、サイドエアバッグキャンセラー2.0Q:
A51NPO ¥1,650(税込)が必要です。

※ショルダ一部とドアトリム、またはベルトバックル部とセンターコンソールなどで触る程度〜10ミリ前後干渉(シートの位置や角度などで条件は異なります。)
※S660専用音響システム「スカイサウンドスピーカーシステム(リア用)」を装着の場合、シートの位置や角度などの条件によりスピーカーとヘッドレストが干渉します。

リクライニング機構付バケットが更なる進化。
剛性・強度に加えコンフォート性も高めた
新世代アクティブコンフォート、ストラディアIII。

STRADIAIII

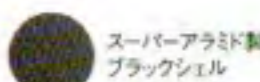
¥220,000～¥280,500(税込)

- スチールフレーム●FRP製シルバーシェル/スーパーアラミド製ブラックシェル
- 全3色(グラデーションロゴ/ブラック/レッド)●難燃生地
- スタンダードクッション/ロークッション●保安基準適合モデル●日本製
- 着座センサー搭載(座面部)※車種によっては、対応できない場合があります。
- FRP製重量:約14.0kg/スーパーアラミド製重量:約14.0kg(参考数値)



抗菌(除菌・脱臭)対応の安心仕様

車検もOK!



写真のモデルは、
STRADIAIII(スタンダードクッション)・
スーパーアラミド製
ブラックシェル・レッド(G71BSR)です。

- S660(JW5)適合シートレール/
●シートレール右席:H051LR ¥23,650(税込)※純正座面比最大-30mm
●シートレール左席:H052LR ¥23,650(税込)
※サイドエアバッグ装着車の場合、サイドエアバッグキャンセラー2.0Q:
A51NPO ¥1,650(税込)が必要です。



Racing & Stylish



ブリッド&エディルブの最新カタログ、無料で差し上げます。



住所・氏名・年齢・電話番号・現在お乗りの車種名・車種型式・雑誌名をご記入のうえ、ハガキにてブリッド株式会社カタログ請求係までお申し込みください。
ファクス、ホームページからも請求できますので、どうぞ、お気軽にお申し込みください。



BRIDE SUPER SEAT
BRIDE CO., LTD.
ブリッド株式会社

〒476-0015 愛知県東海市東海町1丁目11番1号
電話.(052)689-2611 ファクス.(052)689-2612
※掲載製品の仕様・デザイン・価格等の変更及び、販売終了を予告なく行う場合がありますので、予めご了承ください。



HONDA S660 & ZETAIV

写真は、ホンダ・S660の運転席、助手席ともにZETAIV・FRP製シルバーシェル・ブラック(HA1ASF)を装着したものです。